

長崎の林業

小曾根星堂書



親子で楽しい時(リズム)を刻む
ながさ木ハートのカスタネット



【木】という漢字をよく見ると、アルファベットの【K】と【I】で構成されていることに気づきます。
木の中には" I (愛) "があるんです。

長崎県産のヒノキで商品化された「ながさ木ハートのカスタネット」

目次

- 林政だより 雲仙・普賢岳噴火災害から30年
～安全安心に向けた取り組み～……………2～3
- 特集記事 未来を担う子どもたちに挑戦する楽しさと喜びを
平戸市 体験工房竹とんぼ 杉山 安信さん……4～5
- 地方だより 第18回ビジネスプランコンテスト 準グランプリ受賞
ながさ木♥プロジェクト (有)野中木工所 ……6～7
- 林業普及だより 林業参入に向けた伐倒作業等における安全研修会…………… 8
- 林業団体情報 対馬市 カーボン・オフセットにJ-クレジットを …… 9
- センターだより 人工ホダ場のナメクジ対策には粒石灰……………10
- 紹介コーナー 木と革の店 物ノ工房……………11
- 長崎の山 将冠岳445m (佐世保市) ……12

「長崎の林業」は、
ながさき森林環境
税により発行して
います。



2021
No.792

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

ながさき森林環境税の取組についてはこちら→



森林ボランティアに興味のある方はこちら→



FREE

ご自由にお持ち下さい。

「長崎県庁」のホームページ「広報」→「県の発行物」からもご覧いただけます。

雲仙・普賢岳噴火災害から30年～安全安心に向けた取り組み～



雲仙・普賢岳 水無川流域（航空実播工 こうくうじっばんこう 施工状況 令和3年2月）

はじめに

島原半島の中央部に位置する雲仙・普賢岳では30年前の平成3年に発生した大火砕流や土石流等の火山災害により、死者・行方不明者43名の人的被害をはじめ、森林被害面積2,640ha、建物被害2,500棟など、農林業・漁業・商工業の被害総額は2,300億円以上と、甚大な被害が発生しました。治山対策の実施にあたっては、学識者や行政機関等で構成される「雲仙地区治山対策検討委員会」（以下、委員会）から提言をいただき、無人化施工による治山ダム工や航空実播工など、国や地元市町と連携し、事業を実施しています。

雲仙・普賢岳のこれから

雲仙・普賢岳の治山対策の実施から30年の節目を迎え、「委員会」からは、これまでの治山対策を評価するとともに、治山ダム完成後も数年間は観測及び調査を行い、必要に応じて追加対策を検討するよう提言されています。

また、地元町内会等からも、近年の全国的な豪雨災害の発生状況を踏まえ、引き続き治山事業推進の要望が行われています。

これらの提言及び要望をもとに、県では、ハード対策とソフト対策による地域の「安全安心」の確保実現のため、以下の治山対策に取り組んでいます。

① 荒廃箇所の早期緑化のための航空実播工

立入制限のある警戒区域内の荒廃箇所で、令和2年度に航空実播工A=3.9haを実施し、令和3年度は土壌の養分を補い、樹勢を回復させるための追肥を計画しています。

② 治山ダムの周辺土砂の観測及び調査・分析

土砂流出状況等の観測及び調査については、令和2年度はドローン等を使用した写真撮影を年4回定期的実施し、航空レーザ測量による地形調査を年1回実施しています。

雲仙・普賢岳周辺では令和2年6月・7月に平年の2倍を超える総雨量が観測され、9月には台風の襲来もありましたが、航空レーザ測量による地形調査データの三次元解析を実施した結果、年間を通じて地形の急激な変化はなく、土石流の発生は確認されませんでした。

これまで実施してきた、航空実播工や治山ダム工の効果が発揮されているものと考えています。

③ 観測及び調査・分析結果の地元への説明

正確な溪流の情報を知る事により、災害発生時の早期避難等に役立てるため、水無川流域の状況について、説明会や広報誌を通じて下流域住民の方々に治山対策の周知を行っています。広報誌については令和2年4月から

令和3年4月までの間に計5回配布し定期的に情報提供を行っています。

今後も国有林と民有林治山事業の連携により、防災・減災、国土強靱化を進め、地域の安全安心の実現に向けて取り組んでまいります。



雲仙・普賢岳（被災当時状況 平成3年）



雲仙・普賢岳（緑化状況 令和3年5月）

（森林整備室 治山班）

【特集記事】



未来を担う子どもたちに挑戦する楽しさと喜びを
 平戸市 体験工房竹とんぼ 杉山 安信さん

平戸市^{ししちょう}獅子町 「体験工房竹とんぼ」 ^{すぎやま}杉山 ^{やすのぶ}安信さんと奥様^{えつこ}の悦子さん

世界遺産と自然溢れるまち「平戸」

長崎県の北西部に位置する平戸島。美しい海に囲まれ、古くから外国との交流の重要な拠点として知られ、日本初の西洋貿易港として栄えてきました。1977年に本土との連絡橋として平戸大橋が開通、日本の城100名城に選ばれた「平戸城」や、2018年に世界遺産に登録された「春日集落と安満岳」^{やすまんだけ}、「中江ノ島」など多くの観光名所があり年間138万人程の観光客が訪れています。この平戸で、観光客の誘致にも貢献しているご夫婦がいらっしゃいます。今回は地元獅子町に竹細工の体験工房を構える杉山安信さんと奥様の悦子さんに話を伺いました。

貨物船船長からの転身

今年71歳を迎える杉山さんが定年退職後、一念発起し地元獅子町に開いたのが「体験工房 竹とんぼ」です。現役の頃は貨物船の船長だった杉山さん。中学卒業と同時に父と愛媛県にある船会社の外国航路のタンカーに乗り、28歳で船長の国家資格を取得、その後30年以上に渡り船長として勤め上げました。その間、ベトナム戦争下では夜間に飛んでくる砲弾を掻い潜って逃げ惑い、大荒れの海で

崩れた積み荷に挟まれ重傷を負うなど、まさに命がけの航海を幾度となく経験してきたそうです。そんな杉山さんが竹細工と出会ったのは定年間近の頃でした。体調を崩し療養中に散歩していた海岸で偶然拾った竹で近所の子供に竹とんぼを作ってあげたところ、喜んでくれた笑顔が忘れられず、持ち前の向上心が功を奏し日を追うごとに本格化していきました。



(左) 工房での制作作業の様子
 (右) 杉山さんお手製竹ひご制作専用の木枠

修学旅行生の受け入れと民泊に挑戦

工房の壁には、沢山の手書きのメッセージや写真が飾られています。どれも修学旅行で訪れた小中高生から送られたものです。数名のグループを受け入れ、食事の準備から就寝に至るまで子ども達と共に生活し、竹を使っ

て年齢にあった「ものづくり」を体験します。壁一面に感謝の言葉と楽しげな文字が踊り、誰かと一緒にものを作る体験が子ども達に自信を与え、皆かけがえのない思い出と、自作の竹細工と共に帰宅の途に就いた事を伺い知ることが出来ました。



(左右) 子ども達からの感謝のメッセージ

三度の市長賞受賞と突然の病を経て

沢山の竹に触れ、扱いにも慣れてきた頃、大きな工芸品の制作に取り掛かることを決意します。しかし近くには作品に使える良い孟宗竹がありませんでした。そこで良い材を求めて平戸島内を回り、これかと思う竹に出会うと交渉し分けて貰いました。そして平成29年「順風満帆」と題した作品で見事市長賞を受賞、3年連続同賞を受賞するという快挙を成し遂げました。



(左) およそ1年もの歳月をかけ制作した帆船
(右) 令和元年度市長賞受賞作品 制作約5か月

今から3年前、自分の技を何かに役立てたいと考えていた杉山さんを突然の病が襲いました。10日間昏睡状態となった中、うわ言で口にしていたのは体験に来る子ども達のことでした。子どもたちに会いたい一心で死の淵から復活を果たした杉山さん。自分を生かしてくれた子ども達に恩返しをしたいと、なんと平戸市全域全校の小学生約1500名と3～5歳の園児700名、雲仙市の小学生600名に竹とんぼを寄贈しました。

工房竹とんぼ作の「竹とんぼ」世界へ

7月末、平戸市役所でオランダからの国際交流員として就業していたポエト・ボニーさんが任期を終え、平戸を離れることになりました。竹のないオランダの子ども達に日本の文化と竹の魅力を伝えるため、交流のあったボニーさんを通じて竹とんぼを寄贈したいと提案した杉山さん。およそ2週間かけて200本の竹とんぼを制作しました。寄贈式では、ボニーさんへ竹とんぼの歴史や古来より伝わる竹との関わりを説明し、直々に飛ばし方を伝授。200本の竹とんぼは平戸の子ども達の手紙と共に、後日オランダの子ども達へ届けられるそうです。



(左) 国際交流員のポエト・ボニーさん
(右) 竹とんぼの飛ばし方を伝授する杉山さん

ものづくりを通し「心」を育てる

今回夏休みの出前講座に同行させて頂きました。自分が出来ることは全て子ども達に伝えたいと話す杉山さんの元に集まったのは小学生27名。今回の挑戦は竹とんぼです。学年に応じて作業担当するパーツを変え「出来る」自信に繋げる工夫がなされていました。刃物を使う心構え、怪我をする怖さを聞いた子ども達の顔は真剣そのもの。昔は生活を支える道具に沢山の竹が使われていたことを知った子ども達は大事そうに竹を削り、世界に一つの竹とんぼ作りを楽しんでいました。



竹の削り方を教わる子ども達

(NPO 法人地域循環研究所)

地方だより

令和2年度日本商工会議所青年部主催 第18回ビジネスプランコンテスト 準グランプリ受賞 ながさ木♥プロジェクト (有)野中木工所

はじめに

今回、昨年度の日本商工会議所青年部主催第18回ビジネスプランコンテストにおいて、大村市の(有)野中木工所 代表取締役 野中哲也さんの「ながさ木♥プロジェクト」が準グランプリを受賞されましたので、お話をお聞きしました。



準グランプリ受賞の状況

このコンテストは、自分と向き合った魅力あるビジネスプランをさらに引き伸ばすため、「ビジネスプランの作成方法を学ぶ機会」と「未来へ挑戦する機会」として日本の経済を担う全国の商工会議所青年部の方々を対象に開催されるもので、全国の優秀なプランの中からグランプリ×1、準グランプリ×2が選出されるものです。

ながさ木♥プロジェクトとは

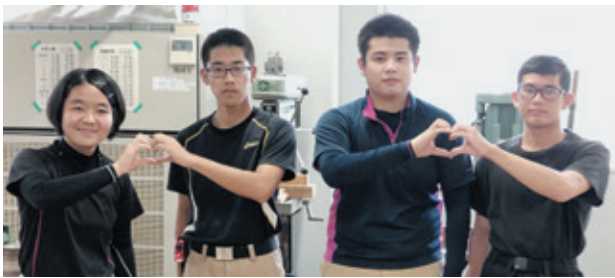
このプロジェクトは、県央振興局林業課の職員から2019年10月にご相談を受けたことにはじまります。

それは、(株)鈴木楽器製作所と長崎県で「長崎県産の桧(ひのき)で、木の優しい肌ざわりを多くの子供たちに楽しんでもらい、大切な森林を身近に感じてほしい」という趣旨で、カスタネットを制作する企画でした。弊社も長年、木工業を営んでいることから、私たちの生活に何気ない彩を与えてくれる木に対しての思い入れは強くありましたので、この企画に制作者として加わり、3者で試作・検討を重ねて、親子の手を合わせたハートをイメージした形の「ながさ木♥ハートのカスタネット」として、昨年12月から商品化しています。



(株)鈴木楽器製作所での試作品の検討

カスタネットの表面の仕上げでは、長崎県立ろう学校、長崎県立虹の原特別支援学校、長崎県立希望ヶ丘特別支援学校の生徒さんにもご協力いただき長崎県産の桧の優しい肌触りに仕上がっています。



長崎県立ろう学校の生徒の皆さん

この取り組みがきっかけとなり、ながさ木で多くの人とつながり、みんなが笑顔になるための取り組みを考えて「ながさ木♥プロジェクト」と名付けました。

プロジェクトの内容は次のとおりです。

- ① 身近な木製楽器など木の優しさに触れる小物などの商品化



ながさ木ハートのカスタネット

- ② 木製の楽器（楽木）や小物をとおして楽しい木育、木に触れ合う場の提供



イベントでのカスタネットづくり

- ③ 長崎県産の木を使用した住宅建築やリフォームなどの促進

準グランプリを受賞して

木を使うことは、森林の資源循環を促し、地域の環境や産業を守ることにつながります。木を様々な形で商品化して、木とのふれあいをおして、木の優しさとぬくもりを感じて頂き、木を利用する意義を考えてもらうことができると思いました。カスタネット製作過程では、障害を持つ生徒の皆さんに協力をしていただいております。このカスタネットが全国の方々に楽しんで頂ければ、生徒の皆さんの大きな自信となり将来の光になるのではないかという強い思いでコンテストへチャレンジしました。

コンテストには、全国から73プランがエントリーされ、予選を通過できるのは15プランのみで、当初は予選通過も考えていませんでしたがギリギリの15位で予選を通過し、予選通過者が参加するブラッシュアップ研修で多くを学びながらプランを検討していきました。そして、最終審査の結果、全国の優秀なプランの中から準グランプリを受賞したときは全く信じられませんでした。その後、多くの方々から祝福の言葉をいただくなかで実感できるようになりました。是非、「ながさ木♥プロジェクト」をとおして、みんなが幸せになるように取り組んでいきたいと考えています。

終わりに

（有）野中木工所と（株）鈴木楽器製作所と一緒に取り組んできました「ながさ木ハートのカスタネット」をとおしたプロジェクトで、野中さんが全国で準グランプリを受賞されたことを誇りに思います。これからも「ながさ木♥プロジェクト」の実現に向けて一緒に取り組み木材利用を進めていきます。

（県央振興局林業課林政班）

林業普及だより

林業参入に向けた伐倒作業等における安全研修会



講師による安全な伐倒技術の指導

五島市では、森林環境譲与税により間伐、人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や林業普及啓発等を推進しています。

中でも人材育成・担い手の確保として、市内の建設業の方々に人工林の間伐における伐採作業の基本と安全作業知識を学習いただき、建設業から林業への参入を促す目的で、「林業参入に向けた伐倒作業等における安全研修会」を令和元年度から開催しています。

山村地域のこれまで手入れが十分に行われてこなかった森林の整備を進展させるとともに、山村の振興等につながる事が期待されます。

令和3年3月に開催された研修会には五島市内の建設業2社6名に参加、受講いただきました。

安全な伐倒技術の実習

現地での伐倒実習前に、間伐の意義と安全な伐倒作業に関する基礎知識を県の普及指導員が講義するとともに、チェーンソーの取扱や省令の徹底を説明し、基本動作を守る必要性を理解いただきました。

その知識を踏まえて、林業事業者の講師による伐倒実演を見学して、安全な作業手順で伐倒する方法を解り易く解説してもらい、危険なかかり木処理についても実演しながら、安全な伐倒技術を実習してもらいました。

研修参加者全員に伐倒作業の実体験をしてもらいましたが、人工林の伐倒やかかり木処理が初めての参加者がほとんどであり、「地形や樹木の密接状況に合わせて、伐倒方向はどう決めればよいか?」「木の特性にあわせた

受け口、追い口の作り方は?」等の質問が多く、自ら伐倒作業を行う中で分からない部分を講師にその都度確認して指導を受けました。

また、参加者持参のチェーンソーを講師に確認してもらい、メンテナンス方法やソーチェーンの目立てについても指導を受け、目立ての一定回数と角度と深さが重要であることを学習いただきました。

建設業から林業への参入の問題

安全な伐倒作業の基本を受講いただいたのですが、建設業から林業への参入に対する問題として、近年の建設業界は年間を通して忙しく、規模が大きな会社はとて林業に参入する余裕がない状況です。

しかし、従業者の減少や高齢化が進む林業界の人材育成・担い手の確保を図るためには、現状チェーンソーを保有する等により建設業から参入いただくことが効果的です。

今後も4～5年間程度、今回のような研修会を五島市に実施いただき、技術力等を高めて1人で伐倒作業ができる能力、知識、判断力を付けていただくことが重要です。

なお、令和元年から開催継続していますが、チェーンソーのメンテナンス、目立て方法、人命に関わる基礎知識と危険回避する技能を最低限身に付けなければ、重大事故が発生してしまい、安易で中途半端な作業技術は逆効果かつ危険であることが、開催のたびに普及員として気づかされます。

今後は「どのようにして建設業の方々に林業の実態や参入メリットを理解いただき参入を促すか」が建設業から林業への参入の大きな問題です。 (五島振興局林務課)



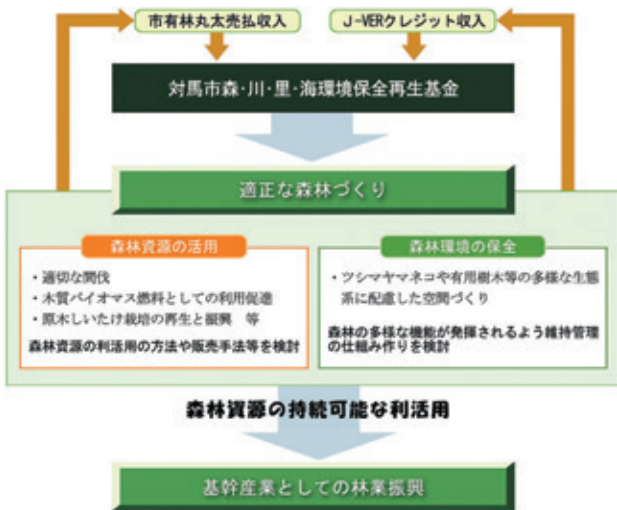
チェーンソーメンテナンスの指導状況

林業団体情報

対馬市 カーボン・オフセットに「J-クレジット」を

対馬市では、森林づくりに関する条例として、県内で初めて平成24年度に施行された「対馬市森林（もり）づくり条例」において、その目的の土台となる「森・川・里・海の循環の仕組み構築」を目標として、多様性に富んだ島の森林づくりを図ることを目指しています。

そこで、平成24年度に「対馬市森・川・里・海環境保全再生基金」を設置し、積み立てる収入として、森林の二酸化炭素吸収量をクレジットとして発行し売却した収入（J-クレジット収入）を充てています。



持続可能な森林資源の利活用のイメージ

J-クレジット制度とは、省エネルギー設備の導入や森林管理などによる温室効果ガスの排出削減・吸収量をクレジットとして認証する制度であり、国が運営しています。

このクレジットは、主に「カーボン・オフセット」に活用します。カーボン・オフセットとは、自らの温室効果ガス排出量のうち、どうしても削減することのできない量の全部または一部を、他での排出削減・吸収量で埋め合せを行うことです。

対馬市では、平成19年度から平成24年度において整備した市有林整備箇所をJ-クレジット制度に、県内の自治体として初めて登録し、クレジットを平成24年度に発行しました。



J-クレジット認証証

現在、カーボン・オフセットの普及啓発や地球温暖化防止の意義を広く周知するとともに、県内におけるカーボン・オフセットの取り組みを推進することを目的とする「ながさきカーボン・オフセット推進協議会」に対馬市は会員として入会しています。

また、令和2年8月に策定された「対馬市SDGs未来都市計画」に示すとおり、同年9月からプラットフォームである「EVI推進協議会（カルネコ株式会社運営）」を通じて販売委託を開始しました。今後、計画上の中間目標の示すとおり、令和4年度までに全量完売を目指してまいります。

対馬市J-クレジットについてはこちら↓
<https://www.city.tsushima.nagasaki.jp/gyousei/sangyo/nourin/ringyo/2907.html>

（対馬市農林しいたけ課）

センターだより

人工ホダ場のナメクジ対策には粒石灰

はじめに

対馬では人工ホダ場で原木シイタケ栽培が増えています。人工ホダ場は、冬暖かく散水によって湿度が高いためナメクジの繁殖に最適な環境になっています。また、被害対策が確立されていないことから、平年では収穫量の2割程度が被害を受けていると考えられています。そこで、簡易な駆除方法の開発に取り組みました。



写真1 チャコウラナメクジと被害

ナメクジはアルカリに弱い

ナメクジは「塩に溶ける」「ビールに集まって溺れ死ぬ」「銅線を嫌がる」などという怪しげな駆除法が一般化しています。

ナメクジは、身近な資材の中でも重曹や酸素系漂白剤などのアルカリ性の物質に敏感です。そのため、これまで慣例的に地面散布されてきた強アルカリ性資材である消石灰について工夫することとしました。

粒石灰は長期的に有効

粉状の消石灰は散水や降雨により流れ出すため、「粒状」にすることで長期間散布位置にとどめることができます。また、消石灰は二酸化炭素を吸収し炭酸カルシウムに変化するものの、アルカリ性の大幅な低下はないため効果は1年程度続くと考えられます。試験地では1㎡あたり800g散布することで被害を軽減できました（図1）。

なお、粒石灰は造粒石灰（防疫資材）や粒状消石灰（土壌改良材）として販売されています。

※12月は未採取

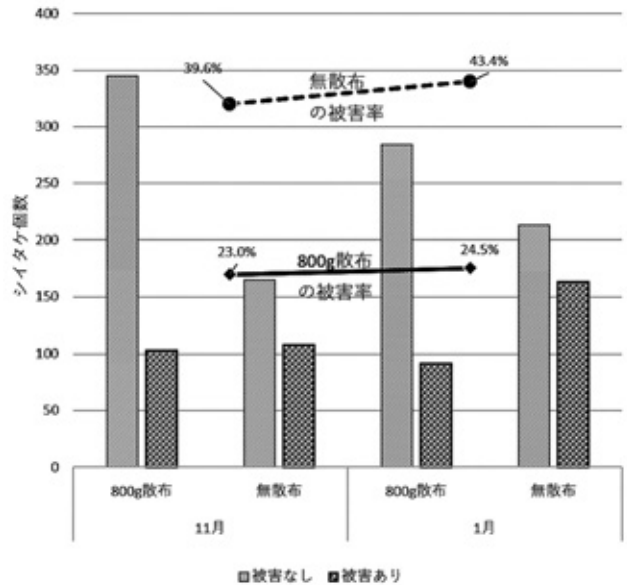


図1 試験地の被害推移 (R2. 11~R3. 1)

おわりに

ナメクジは、夜行性であるため日中に見かけることが少なく、原木の底などの地面に近い位置に隠れています。また、卵も10月から12月に地面や原木の底に産み付けます。地面をアルカリ化するなど居心地の悪い環境にすることがシイタケ被害の軽減につながると考えられます（写真2）。



写真2 粒石灰散布試験 (800g/㎡)

（農林技術開発センター）

紹介コーナー

木と革の店 物ノ工房



佐世保市のハウステンボスから車で5分程の場所に、小さな秘密基地のような木工と革細工の専門店「物ノ工房」があります。道路から一歩入った場所にある工房にふらっと立ち寄るのは、偶然通りすがりにお店を発見した人や SNS で見かけた可愛らしい小物や家具に惹かれた人たち。そんなゆったりとした時間の流れる工房を一人で切り盛りするのは、専門学校で基本的な工業デザインを学んだという木工革細工作家の西能弘にしよしひろさんです。西さんが手掛ける作品は実に大小様々で大きなテーブルのダイニングセットやチェスト、スツール、家具を作った際に出たヒノキの廃材を使った小さなオリジナルキーホルダーまでちょっとユニークでかつ洗練されたデザインのものばかり。

そして何といたってもこちらの作品の面白いところは木と革のコラボレーションです。桐の引き出しのチェストの取っ手にはコロンとしたヌメ革のキューブがついています。革の専門店らしく自分の好みに合った革を選んでオーダーメイドの家具や小物が作れるのが人気の秘密です。西さん曰く以前はさほど材にこだわりはなかったそうですが、最近は長崎県産ヒノキに惹かれているとのことで、今後の新作の登場が楽しみです。

(NPO 法人地域循環研究所)



木と革の店 物ノ工房

住所：佐世保市崎岡町 2585-1
 電話 /FAX：0956-60-9338
 メール：monono.k.323@gmail.com
 営業時間：10:00-19:00（日曜定休日）

伊万里木材市況

【ヒノキ】

令和3年8月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/m ³)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16~18	直	34,900	普通	多い	多い
	16~18	小曲り	33,600	普通	多い	多い
	20~22	直	27,000	普通	多い	多い
	20~22	小曲り	26,800	普通	多い	多い
	24~28	直・小曲り	28,000	少ない	多い	多い

【スギ】

令和3年8月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/m ³)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18~22	直	18,300	普通	多い	多い
	16~22	小曲り	16,600	普通	多い	多い
	24~28	直	18,000	普通	多い	多い
	24~28	小曲り	16,500	普通	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

将冠岳 445 m (佐世保市)



佐世保市皆瀬町から見た将冠岳

将冠岳しょうこうだけは佐世保市中心部にある山で、標高は445mです。周辺には但馬岳たじまだけ、弓張岳ゆみはりだけ、前岳が連なっており、但馬岳は385m、弓張岳は364mと登りやすいことから、これらの3つの山を縦走する登山客も少なくありません。将冠岳はこの3つの中の最高峰となっており、巨大な岩塊が折り重なる山頂を持つことから、道は険しいですが、岩の上からは雄大な展望を望めます。

将冠岳は佐世保市の中心部にありながら、その一部が西海国立公園に指定されており、シイやカシ等の常緑照葉樹林が多く残っています。登山道脇には炭焼き窯の跡も残っており、古くから地域の里山・薪炭林として利活用されてきたことがうかがえます。

名前の由来はいくつかあるようですが、軍港華やかな大正時代に「軍港の背景にある正官岳（筧管岳）は大将の冠、つまり将冠岳がふさわしい」と、呼称が変更になったという説もあるようです。

この将冠岳に関する昔話も存在します。佐世保城主遠藤但馬守の娘、白縫姫しらぬいひめに恋をした飯盛城主松浦丹後守九郎親まつうらたんごのかみ くろうかし（かつて相浦の愛宕山にあった城）。求婚するも断られ、諦めが付かずに姫を奪おうと但馬館に攻め入ってしまいます。姫は館を抜け出し、将冠岳の

岩穴に身を潜めました。その後、丹後守の兵が将冠岳を探し岩穴に近づくと穴から真っ白い大蛇が、白い煙とともに現れたそうです。

このように山には神話や伝説など昔から伝えられる話が多くあります。私たちの住んでいる身近な山にも言い伝えられている物語があるかもしれません。物語を知って山に入るともっと身近に感じるのではないのでしょうか。

(NPO 法人地域循環研究所)



将冠岳横の前岳及び相浦川

長崎の林業 9月号 第792号
 編集・発行 長崎県林政課
 住所：長崎県長崎市尾上町3番1号
 電話：095-895-2990
 ファクシミリ：095-895-2596
 メールアドレス：
 s07090@pref.nagasaki.lg.jp